

後援団体

政府機関	内閣府(防災担当) 警察庁 文部科学省 厚生労働省 農林水産省 経済産業省 防衛省 長崎地方気象台 陸上自衛隊 第4師団 第16普通科連隊 国土交通省 九州地方整備局 長崎河川国道事務所	医療・福祉	日本医師会 日本歯科医師会 公益社団法人日本薬剤師会 公益社団法人日本看護協会 日本赤十字社 社会福祉法人全国社会福祉協議会 社会福祉法人中央共同募金会 日本赤十字社長崎県支部 一般社団法人長崎県医師会 一般社団法人長崎県歯科医師会 公益社団法人長崎県看護協会 一般社団法人長崎県薬剤師会 社会福祉法人長崎県社会福祉協議会		
	経済・生活等		一般社団法人日本経済団体連合会 公益社団法人経済同友会 日本商工会議所 全国商工会連合会 全国中小企業団体中央会 全国農業協同組合中央会 長崎県商工会連合会 長崎県商工会議所連合会 九州電力株式会社長崎支店 九州電力送配電株式会社長崎支店 一般社団法人長崎県建設業協会 一般社団法人長崎県建設業協会島原支部 島原鉄道株式会社 公益社団法人長崎県トラック協会 一般社団法人長崎県火災保安協会 一般社団法人長崎県LPガス協会 長崎県高圧ガス保安協会 株式会社島原観光ビューロー	教育	日本私立大学団体連合会 国立大学法人長崎大学 長崎県立大学 長崎総合科学大学 鎮西学院大学
報道関係		朝日新聞社 毎日新聞社 読売新聞西部本社 共同通信社長崎支局 時事通信社長崎支局 NHK長崎放送局 NBC長崎放送 KTNテレビ長崎 NCC長崎文化放送 NIB長崎国際テレビ エフエム長崎 全国地方新聞社連合会	地方自治	全国知事会 全国市長会 全国町村会 全国都道府県議会議長会 全国市議会議長会 全国町村議会議長会 長崎県市長会 長崎県町村会	消防防災等

(順不同)

シャトルバスのご案内

- ・お帰りのシャトルバスは下記の通り運行します。
- ・各便乗車定員は25名となります。

■ 島原駅行(会場から約15分)

- ①17:10発 ②17:15発(島原港経由17:40島原到着)
- ③17:45発 ④17:55発 ⑤18:10発 ⑥18:40発

■ 島原港行(会場から約10分)

- ①17:10発 ②17:15発 ③18:30発

地域防災力充実強化大会 in 長崎 2021

雲仙普賢岳噴火災害から30年、消防団との連携で挑む地域防災への挑戦



島原守護神しまばらん

日時 2021年11月20日(土) 開場12:00 開会13:00 閉会17:00(予定)

会場 島原復興アリーナ 島原市平成町2番地1

アーカイブ動画

当日の様子は後日、下記URLより視聴できます。
<https://www.chiikibousai-fdma.go.jp>



新型コロナウイルス感染拡大防止に関するお願い

- マスクの着用、咳エチケットへのご協力をお願いいたします。
- 開会中、周りのお客様との会話はご遠慮いただくようお願いいたします。また、マスクの着用がないお客様につきましては、ご退場いただく場合がございます。
- お手洗いをご利用の際など、待機列にお並びの場合、他のお客様との間隔を空けてソーシャルディスタンスの確保をお願いいたします。
- 会場入口にアルコール消毒液を設置しておりますので入場時は必ず、手の消毒にご協力いただきますようお願いいたします。
- 開会中、体調が優れなくなった場合はすぐにスタッフにお伝えください。
- 再入場をご希望の方は、会場入口にて入館パスをスタッフへご提示をお願いいたします。
- 公演後の退場について、密集防止の為会場スタッフによる退場規制を行います。入口近くのお客様から順番にご案内いたしますので、係員の案内があるまで、お席でお待ちいただけますようお願いいたします。
- イベント参加後14日以内に、新型コロナウイルス感染症への感染が確認された場合は、下記へご連絡ください。

長崎新聞社 メディアビジネス局「地域防災力充実強化大会」係
TEL095-844-4874 (9:30~17:30土日祝日を除く)

開催趣旨

消防団員を含む43名の尊い生命を奪った、雲仙普賢岳噴火災害から30年。噴火災害の影響で、現在も山頂には巨大な溶岩ドームが堆積しており、島原市は今なお崩落や土石流による大きな災害の危険にさらされています。

近年、全国各地で頻発している自然災害は、年々その被害が甚大化しており、こうした大規模災害に対処していくためには、消防団や自主防災組織などの地域住民が主体となった活動をはじめ、教育、医療等多くの関係する皆さまの連携が必要です。

平成25年12月の「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」の制定により、消防団が「将来にわたり地域防災力の中核として欠くことのできない代替性のない存在」と明確に位置づけられました。この大会は、そうした消防団と自主防災組織などとの連携強化を推進するため、各地の活動事例や先進的な取り組みを紹介し、地域防災力の向上を図ることを目的として開催します。

当日プログラム

※プログラム内容は変更になる場合がございます。

13:00	開会 主催者挨拶 (総務大臣 長崎県知事 島原市長) (予定)
13:10	来賓挨拶・紹介 (公益財団法人日本消防協会 会長)
13:20	基調講演 「自然災害のリスクを知り、みんなで守る命」 北園 芳人氏 (熊本大学 名誉教授)
14:20	事例発表 事例発表① 中渡 徹氏 (熊本県球磨村総務課 防災管理官) 事例発表② 学生オンラインセッション 仁木 桜氏 (九州ルーテル学院大学人文学部心理臨床学科) 佐藤 菜都氏 (神戸学院大学現代社会学部社会防災学科) 松本 徹朗氏 (東北福祉大学教育学部教育学科初等教育専攻)
15:05	休憩
15:20	パネルディスカッション 「地域での消防団と自主防災組織との連携について」 【パネリスト】中渡 徹氏 (熊本県球磨村総務課 防災管理官) 北園 芳人氏 (熊本大学 名誉教授) 横田 哲夫氏 (島原市安中地区自主防災会 会長) 白川 博一 (杵岐市長) ※杵岐市役所よりリモート参加 古川隆三郎 (元島原市消防団副団長・島原市長) 【コーディネーター】清水 洋氏 (九州大学 特任教授)
16:40	総括 清水 洋氏 (九州大学 特任教授)
16:50	宣言 古川隆三郎 (島原市長)
16:55	閉会挨拶 (公益財団法人長崎県消防協会 会長)
17:00	閉会

司会 西 とも氏(フリーアナウンサー)

出演者プロフィール／所属団体等活動概要

基調講演

北園 芳人氏 (熊本大学 名誉教授)

ープロフィールー

熊本大学大学院工学研究科土木工学専攻修了。熊本大学工学部助手、助教授、教授を経て平成26年3月定年退職、平成27年4月から現職。熊本県防災リーダー研修「火の国ぼうさい塾」講師を初回から担当。NPO法人日本防災士会熊本県支部顧問(防災士)、専門は地盤防災工学、専門を活かして、自然災害の斜面災害を主として調査・研究、熊本地震現地災害調査団(地盤工学会)団長、国土交通省九州地方整備局TEC DOCTORも務める。



事例発表

中渡 徹氏 (熊本県球磨村総務課 防災管理官)

ー球磨村の取組ー

平時における防災に関する普及啓発の取組では、集落に向いて行う防災教育、タイムラインの作成、小中学生に対する防災学習、村民防災ブロック会議等により村民の防災意識の高揚を図っており、令和3年8月に実施したアンケートによれば、避難訓練、炊き出し訓練、危険箇所の確認及び防災教育等、78の集落のうち73の集落が何らかの自主防災活動を実施しており、防災意識の高い村である。

仁木 桜氏 (九州ルーテル学院大学人文学部心理臨床学科)

ー所属団体活動概要ー

九州ルーテル学院大学の学生は、平成28年の熊本地震において学内での避難所運営をはじめとする災害ボランティア活動を行ったことをきっかけに、九州地区を中心とした災害ボランティアを行ってきた。昨年の「令和2年豪雨」では災害ボランティアセンターや避難所の運営ボランティアを中心に活動。本年度は、コロナ禍で活動の自粛が続く中、高齢者を対象としたワクチン予約サポートのボランティアを行った。

佐藤 菜都氏 (神戸学院大学現代社会学部社会防災学科)

ー所属団体活動概要ー

神戸学院大学「防災女子」は、防災や社会貢献を専門に学ぶ女子学生が中心となり、「女子力で災害を乗り切っていこう」をコンセプトに防災啓発活動に取り組むサークル。令和3年11月現在10名が所属しており、一人でも多くの女性そして、家庭・地域社会へ「やってみたくなる防災」を伝えていけるよう、地域・行政・企業などの機関と協力しながら取り組んでいる。

松本 徹朗氏 (東北福祉大学教育学部教育学科初等教育専攻)

ー所属団体活動概要ー

東北福祉大学学生サークル「PASS」は、学生による防災教育を全国で展開し、参加者が楽しく学んでもらうとともに地域の防災力向上を図ることを目的とし、平成25年に設立された。地域・大学・専門機関等との連携や協働活動にも参加するとともに、学生考案のヒーローショー「防災レンジャー」を小学校や地域の防災訓練、様々なイベント等で行い、子どもの防災意識の向上や、子どもが防災活動に参加する一助を展開している。

パネルディスカッション

【パネリスト】

中渡 徹氏 (熊本県球磨村総務課 防災管理官)

北園 芳人氏 (熊本大学 名誉教授)

横田 哲夫氏 (島原市安中地区自主防災会 会長)

ー安中地区自主防災会の取組ー

平成31年4月に町内会長と併任しない、専任の自主防災会会長で組織する新たな安中地区自主防災会を再編した。主な活動は、今もなお不安定な状態で巨大な溶岩の塊である「溶岩ドーム」が、地震や大雨による崩壊を想定した避難訓練を実施。また、各町内会では消防団員の協力を仰ぎ、初期消火訓練や放水訓練、また幾つかの町内会では避難行動要支援者の訪問・見守り活動等も実施。

白川 博一 (杵岐市長) ※杵岐市役所よりリモート参加

ー杵岐市の取組ー

令和元年9月25日、自治体で初となる「気候非常事態宣言」―近年、台風や集中豪雨等が頻発しており、大規模かつ深刻な被害を受け、住民生活に多大な影響を与えている。地球温暖化に起因する気候変動が人間社会や自然界にとって著しい脅威となっていることを認識し、4Rの徹底への取組、2050年までに再生可能エネルギーへ完全移行させることなど、脱炭素化の実現に向けて、社会全体で活動に取り組んでいくことを宣言した。

古川隆三郎 (元島原市消防団副団長・島原市長)

ー島原市の取組ー

激甚化する近代の大規模災害に対応するため、地域防災の要である消防団と自主防災組織などの訓練や研修会を積極的に実施。地域と協働した機能的で実行力のある全国のモデルとなるような、日本一の自主防災組織を目指し、自助・共助の体制づくりを推進。

【コーディネーター】

清水 洋氏 (九州大学 特任教授)

ープロフィールー

昭和60年に九州大学島原地震火山観測所(現、地震火山観測研究センター)助手に採用され、平成10年同教授、平成16年から今年3月まで同センター長。これまで、雲仙普賢岳噴火や福岡県西方沖地震、熊本地震などの地震火山活動の観測研究に従事。現在は、九州大学特任教授として後進の指導にあたるほか、火山噴火予知連絡会会長や雲仙岳火山防災協議会委員として火山活動評価や火山防災に助言を行なっている。